

「学びと交流の場」強化

「中小倉庫業者1社単独では限界がある取り組みでも、全国に広がるネットワークとノウハウで解決できることもある。『2024年問題』を前に、企業同士の協業の可能性と重要性は増してくる」と語るのは、6月に倉庫業青年経営者協議会(倉青協)の第25代会長に就任した小山嘉一郎氏(47、小山企業)。変化する物流環境に対応するため、新会長として経営に生かせる学びと交流の場を強化していく考えだ。

——入会当手を振り返って。

2005年、30歳の時に入会したが、当時は営業部長で現場の仕事があったため、本格的に活動に参加したのは、09年に32歳で社長に就いてからだった。

当時の小山企業はバブル崩壊の負の遺産を抱え、00年代まで財務的な苦しさがあったことに加え、大量生産された在庫を抱える時代から多品種・小ロット化への変化にうまく業務を転換できていない時期でもあった。そんな中、倉青協で似た境遇の会社と悩みを共有

倉青協会長

小山 嘉一郎氏

したり、ノウハウを教わったりすることができた。

——倉青協の強みは。

全国組織のネットワークの力を借りることで、当社のような中小倉庫業者単体では受けられなかった仕事にも対応できたことだ。本来、関東など単体エリアでしか受けられない仕事でも、全国に仲間がいるので、荷主と折衝できる点が大きかった。倉青協会員による共同出資の会社も増えている。22年11月に設立したシステム会社、チームソリューションは、小山企業を含め倉青協の会員や元会員の

6社で立ち上げた。かつて基幹システムを自社開発していたが、システムは進化のスピードが速いため外部に委託していた時期があった。ただ、委託した



新ツール

することが可能になった。——倉青協の活動で力を入れることは。今年度はこれまで以上に学びの場を増やしていく。東京と地方で全体会を年3回開き、会員同士が集まる場をつくっているが、加えて4月と11月に経営に生かせる見学会を企画する。

23年で50周年を迎えた倉青協の会員は、倉庫業にとどまらず多様な事業体に派生してきている。倉庫業や物流業に固定せず、幅広く勉強できればと思う。喜水太郎前会長(福岡倉庫)からの指名で会長職を引き受けたので、しっかりと恩返しするつもりだ。



こやま・かいちろう 1975年、埼玉県生まれ。98年3月富士大学経済学部卒業。シートウーネットワーク(現イオンエブリ)を経て、2003年小山企業埼玉県戸田市入社、09年社長。21年から埼玉県倉庫協会副会長も務める。

——24年を機に物流業は

変化する物流環境に対応

転換期に入る。倉庫業界とトラック業界が別々に対応していても解決にはつながらない。当社はグループに運送会社を持つっており、1都3県のパレル店舗へのルート配送を基軸に共同配送を始めている。例えば、店舗が入る商業施設に荷主のある倉庫協会員がいれば、同じ車両に荷物を積み合わせることで運送効率上がる上、24年以降に数量制限が掛かる場合にも対応できる。

会員の中にはほかにトラックを持つ倉庫業者が多く、倉庫と運送にIT(情報技術)を絡めることで効率的な物流を提案できる。今後、課題を同じくする倉庫業者同士が共同出資して運送会社を持つことも労働時間対応としてあり得る。信頼関係を構築した中で課題や情報の共有を重ねることとは、実際のビジネスの場で生かせる分、ますます重要になってくると考えられる。